

音楽と音の本収録

音楽と音の本【2014No.1】(HP 収録)

分類：単行本

著者・編者：大蔵康義

書名：音と音楽の基礎知識

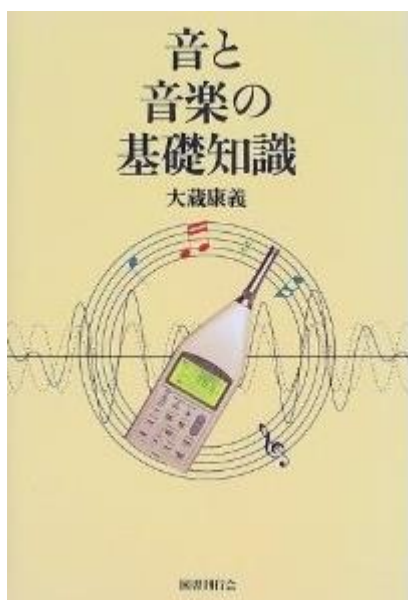
副題：

発行所：国書刊行会

発行年度：2004年5月初版第4刷

備考：品切れ増刷未定

概要：



これまで「感性」という言葉で捉えられてきた「音」と「音楽」は近年の情報技術の発達により、幅広い人間科学の領域としての知識を根幹とする音楽表現を求められようとしており、本書は幅広い立場からそのための知識を網羅しようとするものです。そのような目的から次のような目次構成で「音」と「音楽」を科学的に捉えようとして執筆されています。

第1章 音の物理と聴覚

1. 音の性質
2. 波の性質
3. 固有振動
4. 空気振動の変異曲線
5. 楽譜と記譜法

6. 振動数と倍音
7. 音階
8. 音程測定の基準
9. 音の協和
10. 結合音
11. 出力と音量
12. 耳の性質と構造
13. 聴覚の精度
14. 音色と波の合成

第2章 音の科学

1. 音の記録
2. 記録の機器 (マイクロフォン)
3. 楽器の録音
4. 音の再生
5. 増幅器 (アンプリファイアー)
6. シンセサイザ
7. 音響効果

第3章 音の認知と音楽構造

1. 音の認知
2. 音楽構造
3. 現代の音楽
4. 音の配置
5. 楽曲の評価と提示

そういうわけで簡単に読み飛ばすことは容易ではありませんが、何か調べたいときに辞書のように参照するのに便利です。

第1章の6. 振動数と倍音、7. 音階、8. 音程測定 of 基準、9. 音の協和、10. 結合音などは、楽音に関する基礎知識として必須であり、オーディオをやる以上、13. 聴覚の精度も知っておくべきでしょう。第2章はオーディオシステムに関わる工学的な基礎であり、第3章の2. 音楽構造は音楽をより深く知るために有益とされます。本書は音楽を職業とする人たちに基礎知識を与えるものですが、音楽を受動的に楽しむものにとっても音楽と音をより深く知る導きとなるものと言えましょう。

